

ニタイト

からの「お便り」

第5号

☎487-2332



令和最初の夏は、暑い日があったり寒い日があったりと、例年とは様子が違うようでした。博物館事務所は冷房設備がないので暑い日は大変でした…！皆さんもこの寒暖差に体調を崩されないよう、体に気を付けてください。（高）

大人も楽しめる 本格！！土器作り講座 ～いにしえの土器作りに挑戦～

町内で発見される数千年前の縄文土器と、同じ大きさ（約20～30cm）の土器を作り、縄文技術を追体験します。完成した土器は乾燥後野焼きを行い、実際に使える土器として参加者にお渡します。講師に元釧路市立博物館館長の西幸隆氏をお迎えし、全2回の講座で製作します。貴重な機会ですので、どうぞ申し込みください。



- 日 時／9月22日(日)・23日(月)、午前9時30分～午後1時
- 場 所／1階体験作業室
- 定 員／8人（高校生以上推奨）
- 申込締切／9月18日(水)
- 材料費／1,000円

久米が勤務していた1921年（大正10年）ごろは、1908年（明治41年）に開設された川上支部の整備がほぼ終わりに近づいた時期です。「釧路新聞」によればこの頃の川上支部保管馬数は825頭で、創設初期より2倍近く増加していました。そのため馬の飼料を得るための耕作地の増加が必要となり、放牧地の一部を耕作地として転換しています。一方で使われていなかった用

級は陸軍中佐です。
久米三男三は1870年代（明治初期）の生まれと推測されますが、正確な生年は不明です。元々は別姓でしたが、養子縁組を経て久米姓となりました。歴代、標茶の軍馬補充部支部長となつた方々は、騎兵隊出身者が多いという特徴があります。皇室警護の任務に携わつた後、軍馬補充部川上支部に着任した久米は異色の経歴の持ち主でした。正確な着任日は分かっていませんが、1920～21年（大正9～10年）ごろに着任したとみられ、1923年（大正12年）11月まで勤務していました。着任時の階級は陸軍中佐です。

でも分かっていませんでした。しかし、2011年（平成23年）、久米のご子孫にあたる八田政恭氏らが先祖縁の地を巡る旅の中で当時の標茶町郷土館に立ち寄り、幾つかの新しい情報を提供してくださいました。その情報により明らかとなった、久米の実像についてご紹介いたします。



支部長 久米三男三
(八田政恭氏所蔵)

久米三男三は、軍馬補充部第5代支部長として勤務した日本陸軍の軍人です。本町に久米に関する資料はほとんど残されておらず、長らくその実像は不明で、生没年や川上支部に勤務した期間について

標茶に生きた人々の中には、伝記のような形で記録が残され、歴史にその名を遺した方がいます。そんな人々の人生の物語をご紹介します。

軍馬補充部川上支部第五代支部長 久米

三男三 みおぞう



標茶近世・近代人物誌 第3話



博物館スタンプ 押してみませんか？

1階ラウンジにスタンプコーナーがあります。スタンプは「博物館とシマフクロウのはく製」「馬と旧塘路駅通所」の2種類で、観光客に大変人気です。博物館を訪れた思い出にぜひ押してみてもはいかがでしょうか？

博物館ではこんなこともしています ～実習生の受け入れを行いました～

7月26日から30日までインターンシップとして標茶高校生1人、8月1日から5日まで博物館実習生として帯広大谷短期大学地域教養学科の学生1人を受け入れました。



2人は職員指導の下、受付での対応や博物館蔵書の整理業務に取り組みました。博物館では展示公開のほかに、こうした教育支援活動も行っています。

地を、未整理用地として大蔵省に返還した記録も残っています。この用地返還は、軍備縮小による影響と考えられます。当時、第1次世界大戦が終結し、主要国を中心として世界的に軍縮のムードが高まっていました。軍備拡大とその維持は、各国の予算を圧迫していたのです。1921～22年（大正10～11年）にかけて行われたワシントン会議の中では、海軍の軍縮条約に関わる会議が行われました。日本もその条約に合意し、海軍が軍縮に着手。この流れを受け、日本の議会で軍備縮小が叫ばれるようになり、陸軍も対応を迫られました。当時の陸軍大臣山梨半造の指示の下、1922年（大正11年）より2度にわたり軍備整理と軍縮を行います。この時、陸軍将兵と軍馬の大幅な削減を行ったことから、川上支部の用地返還も影響を受けていたのでしよう。

標茶に在任中、久米家では次男と三男が誕生しました。ご子孫の方々からの聞き取りでは、久米の妻・千代が「標茶での暮らしは大変だった」と回顧し、語ったことがあったそうです。印象深い思い出として「冬は凍った川の上を馬ソリで下った」「病気になる」と鉦路まで行き、大病となるとその後函館まで行ったため、治療まで3日はかかった」と話されていたそうです。

久米は軍馬補充部川上支部長を務めた後、ほどなくして軍を辞めました。久米が勤務していた頃、川上支部では捕ったクマを毛皮にして支部長に届けたことがあったそうで、現在でもご子孫の方の自宅には標茶で捕られたヒゲマの毛皮が保管されています。

川上支部備人団より贈られた馬の置物（八田政恭氏所蔵）



川上支部備人団より贈られた馬の置物
（八田政恭氏所蔵）